

# 改善箇所説明図



燃料タンクキャップ

キャップ取付方法ステッカー  
基準不適合発生箇所

ウォータセパレータ

水抜き励行ステッカー



整備表ステッカー

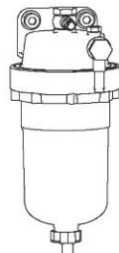
ドレンコック

ウォータセパレータ

対策前



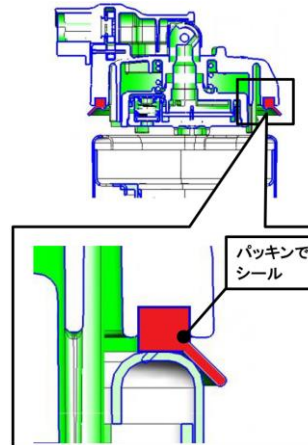
対策後



注:    は対策品に交換、  
   は追加部品を示す。

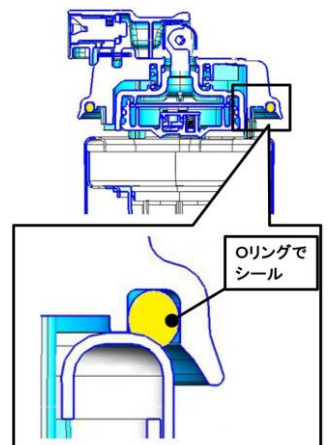
燃料タンクキャップ

対策前



パッキンでシール

対策後



Oリングでシール

タイヤローラにおいて、燃料の給油後に燃料タンクキャップが正しく取り付けられていない場合、燃料タンクの給油口から燃料タンク内に水が浸入することがある。そのため、ウォータセパレータの水抜きメンテナンスを実施する前に水溜容量を超えて原動機内部に水が浸入し、燃料装置が発錆することで噴霧不良となり、最悪の場合、走行中にエンジンが停止し、再始動できなくなるおそれがある。

改善措置の内容:

燃料タンクキャップとウォータセパレータを対策品に交換し、燃料タンクの水抜き用ドレンプラグにドレンコックを追加する。

また、燃料タンクキャップの取り付け方法を説明するステッカーを給油口下部に貼り付けるとともに、ウォータセパレータの水抜きを日常点検、燃料タンクの水抜きを「50時間毎」とし、整備表ステッカーおよび水抜き励行ステッカーの貼り替えと取扱説明書の交換を行う。

識別: 燃料タンク下のフレーム裏側に白色ペンキで識別マーキングをする。



白色ペンキを塗布